

# 三角窯を現代に甦らせる

## 2 窯づくり



小型三角窯は、山の傾斜面を利用して築かれた全長2m程度の窯。三角形の底辺付近が燃焼部で、その両端に2つの焚口がある。発掘調査では確認できない天井部分は、考古学者と陶芸家の話合いにより推測する。現代陶芸の知識ではなく、調査結果をもとに、当時の窯の姿を手探りで追究する。

